



## Saving Your Health わたしたちが できることのすべてを

あたりまえすぎて見逃しそうな幸せ。  
それは「健康」であること。

世界には、あたりまえの幸せを脅かす様々な課題があります。  
医療インフラの遅れにより救える命が失われていく開発途上国。  
医療費の増大が財政を圧迫し続けている先進国。

これから先、「健康を維持」していくことは  
簡単なことではありません。  
先行きの見えないこの時代で、私たちに、何ができるのか。

世界的な臨床検査薬企業として  
可能性に手を伸ばし、たゆまぬ研鑽と研究を続け、  
困難を恐れず、諦めず、走り続けたい。  
世界のどこかで、私たちを必要としている誰かのために。



**検査は、病を癒やせない。  
けれども、  
命と笑顔を守ることができる**

1939年の創立から84年。  
臨床検査薬のパイオニアとして  
公衆衛生の分野に参入して以来  
人々の健康と医療に貢献するとの想いは  
今も揺らぐことはありません。

世界で年間1,000万人近くの命を奪う「がん」。  
栄研化学は「大腸がん」の早期発見に取り組み  
便潜血検査用試薬は国内外でトップシェア。  
多くの国で大腸がんスクリーニングプログラムが導入され  
病に苦しむ人を、悲しむ家族を、ひとりでも少なくすることを  
使命として進み続けています。

検査は、病の治癒はできません。  
けれども、早期発見による治療の可能性を上げ  
一人ひとりに合った治療の選択に貢献することで  
苦しみを和らげることができます。

技術で、ひとりでも多くの人の命と笑顔を守りたい。  
それは、私たちの祈りです。

※当社大腸がんスクリーニング検査の提供回数（2022年4月～2023年3月） 累計販売数から推定

大腸がんの早期発見機会の提供回数

90,491,380回

## 未来への歩みは止めない 私たちに救える命がある限り

AIが暮らしをサポートし、インターネットが世界中をつなぐほど  
科学やテクノロジーは発展してきました。

それでも、人類は未知の恐怖に怯えることがあります。  
驚異的な速さで世界を襲った新型コロナウイルス感染症。  
終わりの見えない不安、大切な人を失う絶望感。  
世界が無力感に包まれる中  
私たちは、医療従事者の皆様とともに、諦めず闘ってきました。

栄研化学が開発した、遺伝子検査(LAMP法)は  
より簡易で短時間に結果を導き出せることから  
多くの医療現場で導入され感染症拡大防止に貢献しています。

このLAMP法を活かし、開発途上国で猛威を振るう感染症と向き合い  
今この瞬間にも、失われようとしている多くの命を救いたい。

感染症との闘いに終わりはありません。  
世界のどこかに私たちの研究や技術で  
救うことができる命がある限り。

2030年に当社製品で感染症から救える可能性のある人の数

※LAMP製品の当社マテリアリティPI展開国の人口

2,700,000,000人

# At a Glance

2023年3月期 栄研グループ



売上高

**43,271** 百万円

研究開発費

**4,065** 百万円



当期純利益

**5,736** 百万円

ROE

**12.1** %



従業員数  
(正社員+臨時雇用者)

**1,106** 名

研究開発人数

**191** 名



海外売上比率

**20.6** %

製品展開国数

**49** カ国



CO<sub>2</sub>排出量  
(スコープ1+2)

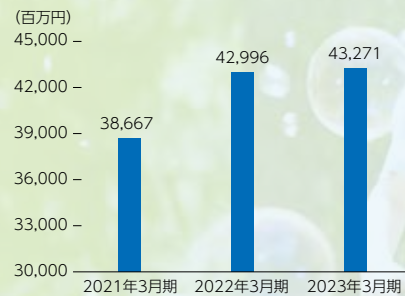
**4,614** t-CO<sub>2</sub>

水使用量  
(全生産拠点)

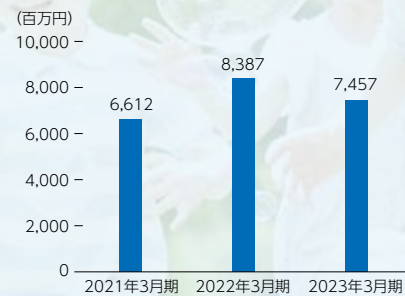
**73.1** 千m<sup>3</sup>

## 主要財務指標の推移

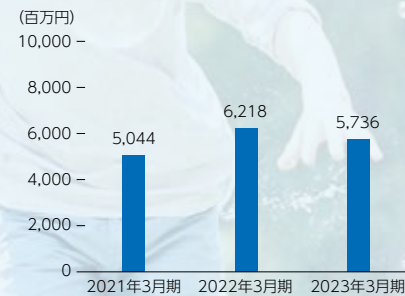
売上高



営業利益



当期純利益



ROE



# FIT

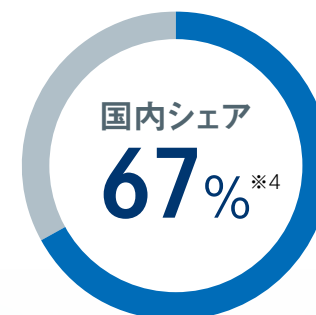
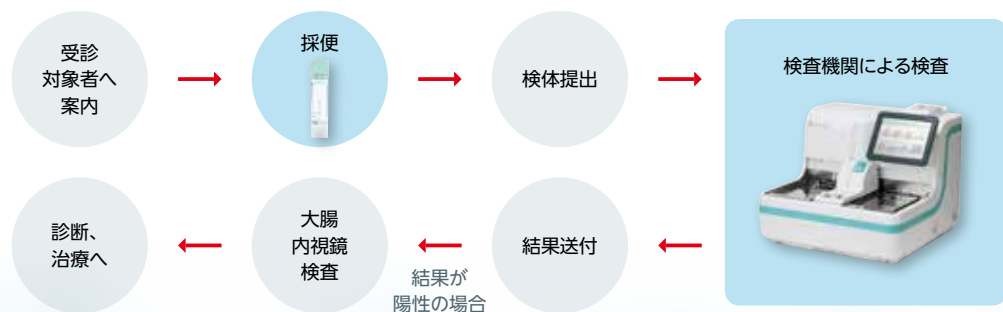
## 人々の健康を守るために

大腸がんは、世界の罹患率約20%の身近な病です※1。一方、比較的進行が遅く、早期に発見できれば、十分に完治が望めます。だからこそ、早期発見につながる大腸がんスクリーニング検査の社会的意義は大きいといえます。

当社は、1987年に免疫法便潜血検査（FIT）用試薬、1989年に世界初の全自動便潜血用分析装置を発売しました。便の表面を擦って採取する簡易かつ安価な検査ですが、この検査の継続により、大腸がんで命を落とすリスクを60%減らすという研究報告※2があり、その有用性は科学的根拠によって証明されています。また、各国の大腸がん検診のガイドラインにFITが収載され※3、世界44カ国で当社製品が大腸がんスクリーニングプログラムとして導入されています。

当社が高いシェアを維持しているのは、早期に参入したこと、蓄積されたデータに基づき、ユーザーニーズに沿った製品開発を常に実施してきたことによります。

### FIT スクリーニングプロトコル



#### FIT市場拡大の構造的要因

- コロナ禍により非接触検査のFIT普及加速
- 内視鏡医不足に伴う検査キャパシティ不足  
→内視鏡トリアージとしてFIT活用
- FITの費用対効果の高さへの評価  
(各国ガイドライン収載、論文掲載)  
→化学法から免疫法への切り替え加速  
→受診開始年齢の引き下げ(米・英など)
- 開発途上国における検診(健診)の普及

#### 戦略

- 検診受診率の向上、検診(健診)の普及  
→検査アクセスの向上  
→次世代便潜血検査の開発
- 検査精度の向上  
→付加価値の向上  
→高精度な検査技術の開発
- 新規スクリーニング国・施設の獲得

#### アウトカム

- 大腸がんによる死亡リスク減少
- 早期治療による医療費の抑制
- QOLの向上
- 健康寿命の延伸

※1 世界保健機関 (WHO) WEBサイト ※2 有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドライン (平成16年度厚生労働省がん助成金「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」)  
※3 各国のガイドライン等 <https://www.eiken.co.jp/en/publication/fit/> ※4 富士経済

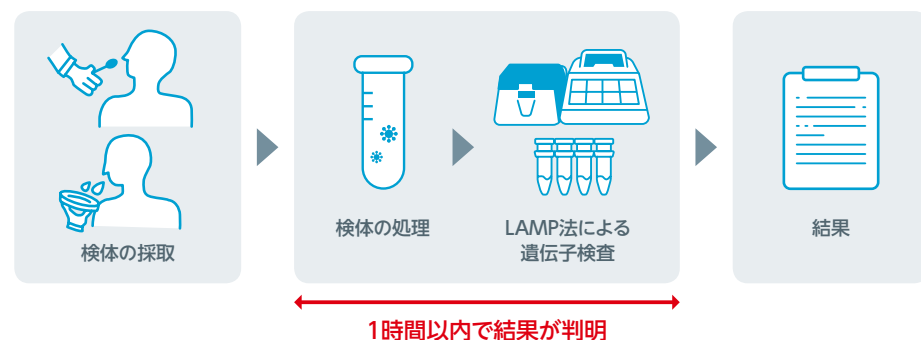
# LAMP

## ネクストパンデミックに備えて

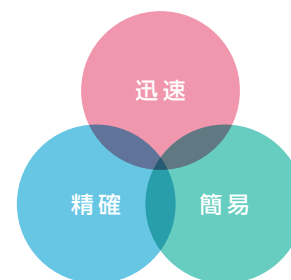
2003年 SARS（重症急性呼吸器症候群）、2009年 新型インフルエンザ、そして2020年 新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミック。当社は、「世界の人々の健康を守る」という使命のもと、都度襲いかかる様々な感染症への検査試薬を提供し、医療従事者の皆様とともにその終息に向けて、尽力してきました。1999年に独自開発したLAMP法による簡易で迅速な検査は、それらの闘いに貢献してきました。その特長を活かし、世界三大感染症である結核、マラリア対策へ貢献しています。

世界では、気候変動の影響で、人獣共通感染症の増加、流行地域の変化等が懸念されており、ネクストパンデミックへの備えが急務です。臨床検査薬のパイオニアとして、これからも新興感染症の流行防止にいち早く対応すべく、社内体制を整えていきます。

### LAMP法による遺伝子検査フロー



### LAMP法の特徴



LAMP (Loop-mediated Isothermal Amplification) とは、当社が独自に開発した遺伝子増幅法です。等温で核酸を増幅させるため、迅速に遺伝子を検出します。本技術は世界的に高く評価されており、結核、マラリア、顧みられない熱帯病（NTDs）等の臨床診断のほか、食品衛生、環境、農畜産、植物など幅広い分野で、各種試薬・検査機器を販売しています。

#### LAMP市場拡大の構造的要因

- 結核蔓延国の人口 37億人
- マラリアの患者増加数 3,000万人（2020～2021年）
- マラリア撲滅活動の推進・継続
- NTDsの感染リスクの人口 17億人
- 医療コンパウンド地域の存在
- 世界保健機関（WHO）による推奨
- COVID-19パンデミックによる、世界的な遺伝子検査の認知度向上

#### 戦略

- 結核、マラリア、NTDsの撲滅
  - 開発途上国への診断薬普及、啓発
  - 効率化による低価格化と生産スピード向上
- 様々な感染症への対応
  - 新興感染症に対する検査試薬の早期開発
  - 感染症の流行モニタリング体制の構築
  - 社外機構との共同開発体制の強化
  - 社内の開発体制の強化

#### アウトカム

- 感染症患者の減少
- 公衆衛生の発展・維持
- パンデミックの未然回避
- 医療アクセスの向上
- グローバルヘルスの向上
- ユニバーサルヘルスカバレッジへの貢献
- 100日ミッション\*達成への貢献

\*100日ミッションは、新たな感染症について、WHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言してから100日以内に、迅速診断薬の承認、安全で有効なワクチンの承認、治療法の確立など、危機対応医薬品等（Medical Countermeasures：MCM）の実用化を達成しようという国際的な目標。100日ミッションでは、100日以内に診断薬やワクチン、治療薬を開発し、承認を取得するだけでなく、低所得国も含めてMCMへのアクセスを保証し、世界中に公平に供給することも目標としている。

# 目次

## Section 01

Value Creation Story

### 価値創造ストーリー

- 02 イントロダクション
- 05 At a Glance
- 06 経営理念の実践
- 08 目次／編集方針等
- 09 経営理念／EIKEN WAY
- 10 ステークホルダーへの提供価値
- 11 トップメッセージ
- 15 栄研化学の価値創造プロセス
- 16 経営資源（資本）

## Section 02

Our Strategy

### 中長期戦略

- 18 長期ビジョンと中期経営計画
- 20 サステナビリティ
- 21 事業環境と戦略
- 22 役員インタビュー
- 25 中期経営計画 注力分野① がん
- 26 中期経営計画 注力分野② 感染症
- 27 中期経営計画 注力分野③ ヘルスケア
- 28 成長戦略1 グローバル戦略
- 30 成長戦略2 研究開発
- 34 成長戦略3 IT/デジタル戦略
- 36 品質の追求
- 37 成長戦略4 地球環境と調和した事業活動
- 39 成長戦略5 人財戦略
- 43 バリューチェーンマネジメント
- 44 成長戦略6 財務戦略

## Section 03

Corporate Governance

### コーポレート・ガバナンス

- 47 コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方
- 48 取締役会の構成・スキルの多様性に対する考え方
- 49 取締役会の実効性評価
- 50 役員報酬
- 51 コンプライアンス・リスクマネジメント
- 53 役員一覧（取締役、執行役）
- 54 社外取締役メッセージ

## Section 04

Our Profile

### 会社概要

- 58 栄研化学の事業
- 59 主な製品・サービス
- 60 財務ハイライト
- 61 非財務ハイライト
- 62 外部評価・株式情報等

### 編集方針

当社グループは、統合報告書をステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとして制作しました。

本報告書の編集にあたり、IIRC「国際統合報告フレームワーク」および経済産業省「価値協創ガイドランス」などを参考にしています。私たちがどんな価値を提供してきたのか、これからどんな価値を提供していこうとしているのか、ご理解いただく一助となれば幸いです。

### 将来見通しに関する注意事項

本報告書に記載されている将来の予想等については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

### 報告期間

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）  
\*一部2023年4月以降の報告を含みます。

### 報告範囲

栄研化学株式会社およびグループ会社

## 経営理念

ヘルスケアを通じて人々の健康を守ります。

私たちは本理念のもと、  
世界の人々の健康・生命を守る製品・サービスを  
提供するという事業活動を通じて社会に貢献します。

## 経営ビジョン

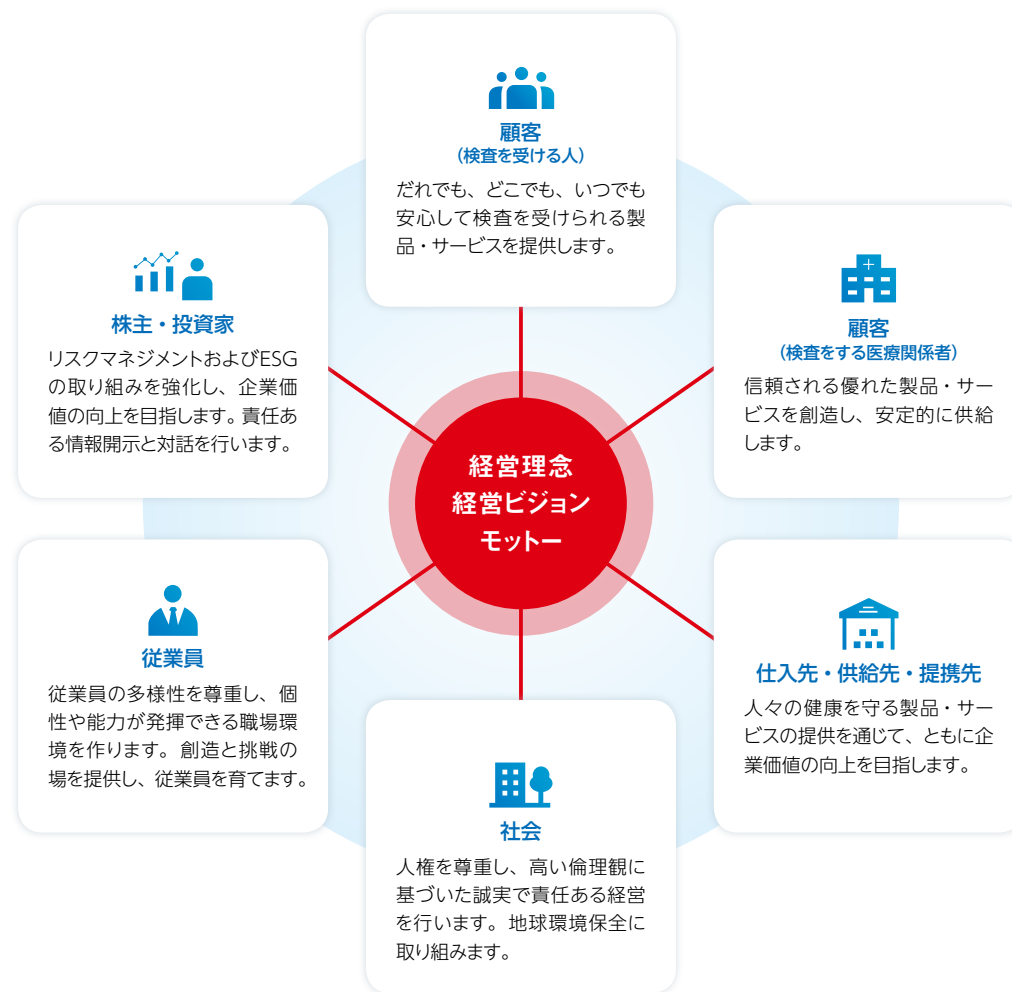
**EIKENグループは、  
人々の健康を守るために、検査のパイオニアとして  
お客様に信頼される製品・サービスを提供し、  
企業価値の向上を図ります。**

## モットー

**品質で信頼され、技術で発展する“EIKEN”**



# EIKEN WAY





## ステークホルダーへの提供価値

ステークホルダー	提供する価値	当社の活動
 <b>顧客 (検査を受ける人)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの早期発見による死亡率の低下</li> <li>・健康寿命の延伸</li> <li>・検査時間短縮による精神的負担の軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診の啓発活動による受診率の向上</li> <li>・検査の精度と速度向上による早期発見への貢献</li> <li>・高いユーザビリティによる簡便性の追求</li> </ul>
 <b>顧客 (検査をする医療関係者)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査体制のスリム化と生産性向上</li> <li>・マルチ検査・小型化による検査室の省スペース化</li> <li>・学術情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発による検査の精度と速度向上</li> <li>・各種検査システムの精度管理サービスの提供</li> <li>・多種・多様な製品の提供</li> <li>・学会参加、勉強会の開催による学術情報の提供</li> </ul>
 <b>仕入先・供給先・提携先</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に応じた安定供給</li> <li>・公平・公正な取引による共存・共栄</li> <li>・環境配慮型製品の提供</li> <li>・省エネルギー機器の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品供給体制の維持</li> <li>・公正かつ自由な競争と適正な取引の実施</li> <li>・CSRセルフアセスメントに基づくバリューチェーンにおけるデューデリジェンス実施</li> <li>・環境配慮型製品の開発</li> <li>・省エネルギー機器の開発</li> </ul>
 <b>社会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の撲滅</li> <li>・医療費の抑制</li> <li>・公衆衛生の維持・向上</li> <li>・気候変動への対策</li> <li>・生物多様性の保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術雑誌「モダンメディア」による質の高い医療情報の提供</li> <li>・早期発見による感染症蔓延防止と高度医療費の抑制</li> <li>・生産効率の改善と自然エネルギーの活用による温室効果ガス排出量の削減</li> <li>・持続可能な資源の利用と環境配慮型製品の開発</li> <li>・廃棄物の削減による環境負荷の低減</li> </ul>
 <b>従業員</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりがい・働きがいの実感</li> <li>・心身の健康・安全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公正な人事評価と報酬制度</li> <li>・創造と挑戦の場の提供</li> <li>・従業員満足度調査に基づくモニタリングと改善活動</li> <li>・安全で働きやすい環境の提供</li> </ul>
 <b>株主・投資家</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な価値創造による財務・非財務指標の長期的向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ESG取り組みの強化による長期的な企業価値向上</li> <li>・適時・適切な責任ある情報開示</li> <li>・ROEの向上によるリターンの最大化</li> <li>・投資家コミュニケーション（決算説明会、One on One MTG等）</li> </ul>

**TOP MESSAGE**

トップメッセージ



医療課題に向き合い、  
常に挑戦してきた栄研化学  
未来を見据え  
その企業文化を進化させる  
組織づくり、土台づくりが私の使命

代表執行役社長 納富 継宣

**1** 医療が直面する課題と向き合い、  
挑戦を続けてきた栄研化学

**2** 栄研化学が果たすべき役割、解決すべき課題

**3** 環境変化に対応する経営戦略  
～経営構想「EIKEN ROAD MAP 2030」と中期経営計画～

**4** 栄研化学の未来に向けて土台づくりを進める

## TOP MESSAGE

トップメッセージ

## 経営理念に掲げる言葉が揺らぐことはなかった 挑戦の歴史を通じて、 事業や組織は強くなった

### 1 医療が直面する課題と向き合い、 挑戦を続けてきた栄研化学

栄研化学の歴史は、医療が直面する課題に対して、常に挑戦を続けてきた歴史です。

84年前、家畜臓器を原料とした栄養食品や医薬品製造販売にはじまった当社は、戦中戦後の混乱期を経てそれまでの技術・ノウハウを応用することにより、微生物や生物組織の培養に使う培地の製造販売に切り着きました。1950年に発売した細菌検査用の培地は、赤痢やチフスなどの感染症が流行する中で、当時の日本における防疫、公衆衛生の

普及・発展に大きく貢献しました。それまでは、培地の処方作成は医師の仕事でしたが、医師との協議を重ねながら国内初の製品化を実現し、医師を手間や時間から解放しました。

この成功を機に、検体検査に役立つ製品を次々と生み出してきました。1958年には細菌薬剤感受性検査用試薬を発売し、1963年には国産初の尿検査用試薬を発売、1975年にはラジオイムノアッセイ関連試薬のような放射性同位元素を利用した抗原量測定試薬を発売、さらに1987年には体内診断用医薬品の低浸透圧造影剤を発売しました。血管造影剤は体内に薬物を投与するこ

とになるため、それまで開発してきた検体検査とはリスクの面で大きな差がありましたが、そこでも当社は果敢に挑戦しました。当社は挑戦を続けながら、今日のような臨床検査薬と装置の総合メーカーへの道を行ってきたのです。

当社は経営理念として、「ヘルスケアを通じて人々の健康を守ります。」という言葉掲げていますが、創立から84年を経た今日まで、この理念が揺らぐようなことは一切ありませんでした。経営理念を胸に、社員が強い使命感を持って挑戦し、取り組む中で、

品質に対するこだわり、倫理に対する強い意識が生まれ、臨床評価を行う際に最初から厳しい目で見える文化も、醸成されたように思います。

当社は現在も挑戦を続けています。現在の主力製品である便潜血検査システムをより発展させる試薬や装置の開発や、LAMP\*法を用いた検査試薬や装置、個別化医療に対応する検査システムの開発などにも、創立以来脈々と受け継がれる「医療が直面する課題解決に使命感を持って取り組む姿勢」が鮮明に表れています。

\*Loop-mediated Isothermal Amplificationの略。  
当社が独自に開発した、迅速、簡易、正確な遺伝子増幅法。



細菌検査用培地  
SS寒天培地「栄研」  
1950年～

サルモネラ菌と赤痢菌を検出する。この製品をきっかけに臨床検査業界に参入。



血管造影剤  
ヘキサブリックス  
320  
1987～2005年

治療薬と同等の管理が求められる体内診断用医薬品分野へ進出。



遺伝子増幅  
測定装置  
LoopampEXIA  
2009年～

現在発売されているLAMP法の検出装置。



便潜血検査装置  
OC-センサー  
Ceres  
2022年～

現在発売されている便潜血検査装置。

## TOP MESSAGE

## トップメッセージ

## 医療を取り巻く事業環境の変化に対応していく 診療所や遠隔医療、へき地医療のニーズにも、 大病院のニーズにも応えていく

### 2 栄研化学が果たすべき役割、 解決すべき課題

医療を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。特に国内では少子高齢化が加速し、医療に対するニーズが大きく変わりつつある中で、新たな医療ニーズに応えるために医療機関の役割分担と連携が進んでいます。かつては、患者さんはどの病院に行っても一定の医療サービスを受けることができたが、日常的な医療は「かかりつけ医」が担い、専門的な医療は大病院や専門病院が担うといった役割分担が進展しつつあります。

当社はこれまで、どちらかと言えば、検査室を設置しているような大病院に対して検査装置や試薬を提供する事業に軸足を置いてきましたが、医療機関の役割分担が進んでいくことを踏まえると、大病院向けの事業に加え、診療所のような「かかりつけ医」でも簡単に使える試薬の提供を行うような事業にも、より一層力を注ぐ必要があ

ると考えています。また昨今のコロナ禍により、リモート診療に対するニーズが加速し、規制緩和も急速に進んでいます。また、へき地医療などで、患者さんのもとに医師が訪問した際に、その場で使えるような臨床検査薬も求められています。今後はこうした検査薬のニーズにも積極的に応えるべく開発を進めます。

一方で、大病院向けの製品・サービスの拡充にも対応していきます。医療機関のデジタル・トランスフォーメーションが進む中で、当社が提供する装置や検査薬を病院のシステムにリンクさせることが求められはじめています。当社内には装置を開発する機能がなく、装置の開発自体は医療機器メーカーに委託することになりますが、そうした医療機器メーカーの担当者と同様に、その設計に深く関与するための知識やノウハウを持つ人財を社内で育てています。この点は非常に重要であり、AI化に対応できる人財の育成には、今後も注力していく考えです。



### 3 環境変化に対応する経営戦略 ～経営構想「EIKEN ROAD MAP 2030」と中期経営計画～

事業環境の変化に確実に対応していくため、2022年4月に経営構想「EIKEN ROAD MAP 2030」を公表しました。この構想では、現在の事業領域を中核としつつ、注力事業分野として「がんの予防・治療への貢献」、「感染症撲滅・感染制御への貢献」、「ヘルスケアに役立つ製品・サービスの提供」の3分野を掲げ、取り組んでいくこととしました。「がん」の分野では、より治療に直結する領域に、「感染症」の分野では、

より簡易な検査技術の確立に、また「ヘルスケア」の分野では、遠隔診療や在宅での検査に対応できる製品・サービスを拡大していく考えです。

また、企業風土の改革にも取り組みます。今後、当社が医療のプロセスにイノベーションを起こし、検査の未来を創るために、従業員一人ひとりがそれぞれの能力を高め、自らが活躍できる領域を広げていくこと、さらにその力を、領域を超えて結集し、チームでチャレンジすることで新しい可能性を生み出すことを目指します。「Beyond the Field - Team × Challenge - 」というスローガンには、こうした思いを込めています。

## TOP MESSAGE

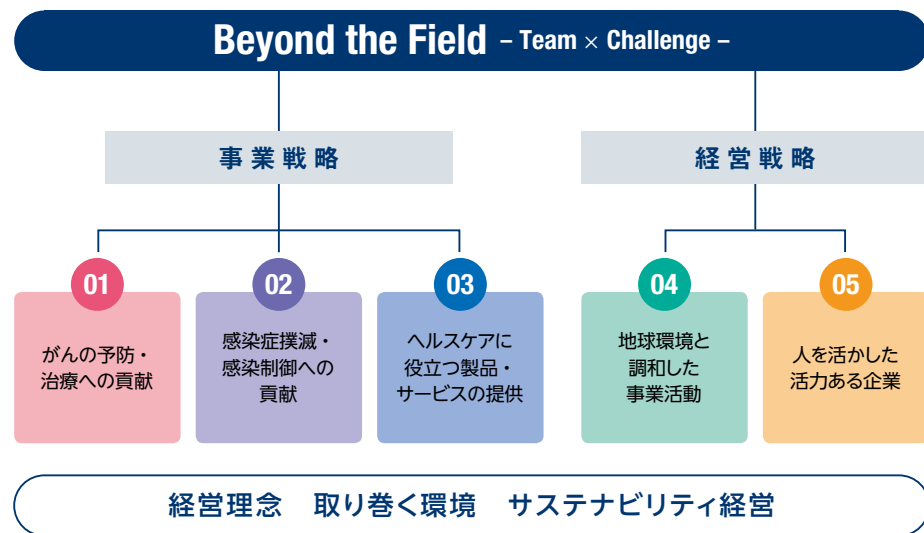
## トップメッセージ

持続可能な社会の実現に向けた取り組みとしては、11項目のマテリアリティ(重要課題)を特定し、行動計画に落とし込んでいます。

2025年3月期を最終年度とする中期経営計画は、「EIKEN ROAD MAP 2030」の実現に向けた最初の中期経営計画となります。具体的には、加速する医療のパラダ

イムシフトに応えるべく3つの注力事業分野ごとに重点施策を設定し、これに取り組みます。また、持続的成長に向けた経営基盤の確立に向けて、「人財戦略」、「機構改革」、「IT戦略」、「財務戦略」、「ガバナンス」の各戦略を推進します。

## 経営構想「EIKEN ROAD MAP 2030」



## グローバルに医療課題を解決していく 未来に向けた土台づくりを進めることが 社長としての使命

### 4 栄研化学の未来に向けて 土台づくりを進める

栄研化学は挑戦する企業文化のもと、これまで事業活動の品質を高め、また、理念体系としてのEIKEN WAYのもと、指名委員会等設置会社に移行してガバナンスシステムの高度化にも注力してきました。こうした努力により、今日、投資家をはじめとする様々なステークホルダーの皆様から信頼を寄せていただける企業にまで成長することはできましたが、経営理念の実現、今後の持続的な成長に向けて、解決すべき課題はまだまだ山積しています。当社は現在、便潜血検査システムを先進国を中心に展開するとともに、開発途上国で、結核・マラリアをはじめとした感染症撲滅に向けて、各国政府・保健当局、NGO等と協力して遺伝子検査システムの定着と普及に取り組んでいますが、これにとどまることなく、開発途上国を含めた便潜血検査の普及を進める等、だれひとり取り残さない医療の実現を目指し、その

改善に向けた取り組みを進め、UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）の達成に貢献していく考えです。

また、現在進めている企業風土の改革は、社長としての私自身の最大のミッションであると認識しています。今のような不透明な時代においては、描いた計画ありきで捉えずに、常に柔軟性を持って対応していくことが求められます。マネジメントシステムのスリム化や、縦割り組織に横串を通し、チーム活動を強化していくこと、開発担当者が開発に専念できる職場環境を整備することなど、組織の土台づくりは、社長である私の責任として、しっかり進めていきます。また、持続的な成長を実現させるため、経営理念を踏まえて当社らしく医療に貢献していくことと、グローバル化を進めて一定の収益を上げ、ステークホルダーに還元していくことを、うまくバランスさせていきます。

未来に向けた栄研化学の挑戦に、どうぞご期待ください。

## 栄研化学の価値創造プロセス

創立以来、検査のパイオニアとして、お客様に信頼される製品・サービスを提供してきました。総合メーカーだからこそできることを大切にしつつ、2030年に向けて、その先の未来に向けて、人々の健康を守り続けます。



## 経営資源(資本)

6つの資本は価値創造の原動力であり、EIKEN Vision 2030とその先の未来を創るための指標です。

2023年3月期



### 財務資本

持続可能な成長を支える  
組織基盤

#### Input

- 総資産：**662.75億円**
- 純資産：**495.35億円**

#### Output

- ROE：**12.1%**
- 営業キャッシュ・フロー：**75.75億円**



### 人的資本

グループ全体の  
成長ドライバー

- 従業員  
(正社員+臨時雇用者) 数：**1,106名**
- 体系化された  
人財育成プログラム
- 人財獲得を目指す  
人事評価制度

- 年間総実労働時間 (正社員/人)：**1,875時間**
- 従業員満足度スコア：**58.4**
- 女性管理職比率：**13.8%**



### 知的資本

検査の未来を創る  
研究開発

- 研究開発人員の割合：**17.3%**
- 研究開発費：**40.65億円**
- 集約された研究開発拠点

- 保有する特許数：**836件**



### 社会関係資本

経営理念に根差した  
パートナーシップ

- EIKEN WAY
- サーベイ実施件数：**10件**
- お問い合わせ件数：**1,044件**
- IR実施件数：**102件**
- 世界保健機関 (WHO) 等  
国際機関との情報連携
- バリューチェーンにおける  
デューデリジェンス実施
- 多様な外部研究機関との  
パートナーシップ

- 製品展開国数：**49カ国**
- 病院・クリニックとの  
ネットワーク
- 株主・投資家との  
適切な関係
- 便潜血試薬シェア：**67% (国内)**



### 製造資本

高品質な製品を  
安定して供給

- 製造拠点：**3カ所**
- 設備投資額：**37.92億円**

- 製品数：**1,836アイテム**



### 自然資本

「最後の世代」として  
環境負荷を低減

- エネルギー消費量：**133,345 GJ**
- 水使用量：**73.1千m<sup>3</sup>**
- とちぎふるさと電気使用量：**6,774MWh (全体の55.8%)**

- 従業員一人当たりの  
CO<sub>2</sub>排出量：**4.17 t**
- 従業員一人当たりの  
水使用量：**66m<sup>3</sup>**
- 太陽光発電量：**97,624kWh (全体の0.8%)**